



考えて

やってみて

次の意欲へ

創造・挑戦・感動

篠山東中
学校だより
12月号 No.11

2学期が終了しました！

～保護者・地域の皆様のご支援とご協力に感謝します！

2025年も、よいお年をお迎えください！～

今日で2学期が終了しました。

2学期は一年を通じて最も長い学期で、体育祭・文化祭などの大きな行事の合間に、定期考査や地域行事、部活動の大会が予定され、生徒たちにとっても教職員にとっても、慌ただしくハードな学期です。

中には見通しが持てずに戸惑う生徒もいましたが、多くの方に支えられ、一人一人が失敗を乗り越え逞しく成長してくれたことをとても嬉しく思っています。

大人はつい目先の結果に目がいきがちですが、勝ち負けではなく、生徒一人一人が課題を乗り越えようと果敢に挑戦したこと、次は上手くいくようにと諦めずに最後まで粘り強く仲間と協力したこと、是非、その頑張りや評価してやってください。それが何より尊く、素晴らしいことだと思います。

今日お子さんが学校から帰って来られたら、「2学期、よくがんばったね。」と、思いっきり抱きしめてあげてください。そして、がんばったことを、しっかりと聴いて、受け止めてあげてください。

さて、今年も残すところ後一週間となりました。新しい年はもう目の前です。

来年の干支は「巳（み）」。巳（み）年は、脱皮を繰り返す蛇（へび）のイメージから「復活と再生」を意味し、新しいことが始まる年と言われています。また、巳（み）を実（み）にかけて「実を結ぶ年」とも言われています。

2025年が皆様にとって「実を結ぶ」素晴らしい一年になりますことを祈念するとともに、1月7日（火）の始業式に、元気な生徒たちの姿に出会えることを楽しみにしています。

後になりましたが、この一年間、本校の教育活動を温かく見守り支えていただきました、保護者、地域の皆様に心より感謝申し上げます。



100%正しい忠告は、まず役立たない！

ピッチに入る選手に「シュートを決めろ！」、打席に入るバッターに「ヒットを打て！」と言うのは100%正しい忠告ですが、それは決して役立つ忠告ではありません。

同様に、職場の社員に「もっと働きなさい」、子どもに「勉強しなさい」は、まず役立ちません。正しい忠告ではありますが…。

なら、役立つ忠告にするために、私たちはどうすればよいのでしょうか。

パーセンテージ（%）を下げることによって、役立つ効果的な忠告になるとも思えません。

子どもに特化して言うなら、どう伝えるかを考える前に、今の子どもたちを取り巻く環境がどのような環境なのか。例えば、今学校でどのような「学び」をしているのか。

まずは、その実態を知ることが大切です。皆さんは、今の学校



での「学び」が少しずつ変化していることをご存知でしょうか。実は、かなり広く深い「学び」になってきています。もし、その一端でも知っていただけたなら、我が子にも、親として役立つ忠告ができるかもしれません。

学びの本質に迫る【資質・能力と学びのメカニズム】奈須正裕著 東洋館出版社から一部引用】

今の学校に求められている「学び」は、まさに社会で役立つ「学び」であり、実生活との結びつきが濃くなってきています。一度、ご家庭でも話題にしてみてください。

●社会

小学5年社会科「食料自給率」の授業。【一口に国産と言っても、一筋縄にはいかない…】

【食料自給率の算定基準を巡っての少女の発言】

「もしも私が豚だったらね。お父さんはアメリカ人の豚でしょ。そして、お母さんは日本人の豚。その二人から生まれた私は、ウクライナの小麦や中国のトウモロコシを食べて育った。

それでいったい、私は国産なの？」

さて、皆さんなら、この少女の質問にどう答えますか。国産の定義って、いったい…？



●算数

小学5年算数科「単位量当たりの大きさ」の授業。

【スーパーで売っている様々なトマトのパックを見せ、「どれが一番お買い特か」を問う】

従来の授業では、トマト1パックの値段を個数で割って、トマト1個あたりの値段が高いか安いかで損得を判断させて終わりでした。でも、実生活と結びつけて考えたとき、それだけが買うか、買わないかの判断基準になるわけではありません。

1個あたりの値段は高くても、健康のため、リコピンが豊富に含まれているブランドトマトを買う家庭もあるでしょう。また、2人暮らしの家庭には、少々値段が割高になっても、使い切れる小さなサイズの方が経済的と言えるかもしれません。皆さんにとって、どれが一番お買い得？

【生活につながる学びと教科の本質に迫ることは、同時に達成可能】



●国語

例えば「読書をする」前に、本のお勧めや帯を書いてみるといった活動を行うことで、読書の前に本あらすじをまとめるという目標ができ、それが読書意欲につながるというデータがあります。

このような実社会（店頭に並んでいる本）に類似した活動を授業に取り入れることで、生徒たちの学びの質や学習意欲が向上し、その意欲が原動力となり、子どもたちは一見難しいと思われる課題にも挑戦し、見事解決していく力を身につけられるようになります。

【学びを効果的なものとし、意欲向上につなげる手立ては、社会との結びつきの中にある】

「一問一答」のような単純に知識を問う「学び」が軽視されているわけではありません。ただ、そういった問いの答えは、今の時代、タブレットやスマホで検索すれば、ものの数秒で答えが見つかります。

でも、今の学校での「学び」は、正解のない問いを議論したり、「納得解」や「最適解」を導き出したりと、自らの生活や社会をより良いものにしたり、自分の生き方や在り方を考えたりする、正解のない問いの答えを導き出すような「学び」に変化してきています。

それは「学び」の本質に迫ることであり、まさに実社会と直結した「学び」といえます。

大人は、そのことを知ったうえで、答えを教えるのではなく、答えの導き出し方（考え方）を伝えることが大切です。

短い冬休みですが、是非、親子の対話を大切にし、有意義にお過ごしください。役立つ忠告ができるよう、私たち教職員も生徒の実態把握に努めてまいります。

